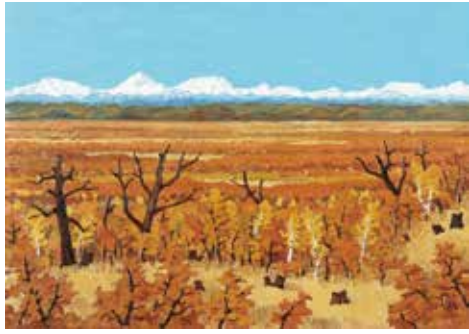


坂本直行展 ～直行さんの足あと～

SAKAMOTO Naoyuki Retrospective

「^{ちよっこ}直行さん」と呼び親しまれている画家坂本直行(1906-1982)は、1930(昭和5)年24歳の時、北海道十勝地域の広尾村(現広尾町)で牧場生活を始め、1936(昭和11)年に入植。約30年にわたり厳しい自然と向き合いながら農業を営みました。原野の開拓は並々ならぬ労働を余儀なくしましたが、その過酷さを原動力とするかのごとく、直行は身近な山々や草花の絵を精力的に描き、また、原野での暮らしの現実を、時にシリアスに、時にユーモアを交えて文章にしたためました。なかでも、農作業の合間にスケッチを重ねた「北海道で一番美しい」日高山脈への思いはひとときわ強く、その壮大な山容をおさめたパノラマ構図は、直行の代表的画題となりました。

本展では、山登りや草花が大好きだった青年期の作品から、日高山脈ほか北海道各地の山々と草花を描いた油彩や水彩、農業に終止符を打った後のネパールやカナダへのスケッチ旅行の成果まで、直行の驚くべき健脚の足あとを、約120点の作品と多彩な資料によってたどりませ。セガンティーニの風景画への憧れや、八雲町の彫刻家柴崎重行との交友など、画家直行の横顔にも迫り、その骨太な生き方に裏付けられた作品の魅力を探ります。



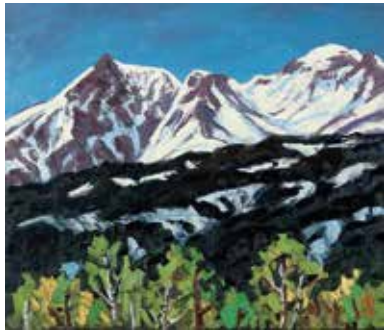
1



2



3



4



5



6



7



8

- 坂本直行《南十勝原野から見た初冬の日高山脈》1958(昭和33)年 雪印メグミルク(株)大樹工場蔵
- 坂本直行《晩秋の原野と日高山脈》1962(昭和37)年 北海道大樹高等学校蔵
- 坂本直行《晩秋の原野と日高山脈》1965(昭和40)年 広尾町立豊似小学校蔵
- 坂本直行《五月の大雪山(清川より)》1964(昭和39)年 北海道広尾高等学校蔵
- 坂本直行《ブラウニング》1954(昭和29)年 広尾町海洋博物館蔵
- 坂本直行《みずばしろう》1965(昭和40)年 坂本直行記念館蔵
- 坂本直行《しらねあおいA》1964(昭和39)年頃 八雲町総合病院蔵
- 坂本直行《スケッチブック》1967(昭和42)年 北大山岳館蔵

【関連事業】

◆美術講演会

日時: 2月10日(土) 14:00～(90分)
 講師: 伊藤健次氏(写真家)
 演題: 「北の山、原野、直行さんのこと」
 会場: 当館講堂(聴講無料、60席)

◆特別展セミナー

日時: 2月11日(日)、2月23日(金・祝) 14:00～(60分)
 講師: 齊藤千鶴子(当館学芸課長)
 演題: 「直行さんの筆あと」
 会場: 当館講堂(聴講無料、60席)

◆ギャラリー・ツアー

日時: 2月12日(月・祝)、2月24日(土) 14:00～(30分)
 進行: 齊藤千鶴子(当館学芸課長)
 会場: 主展示室(要観覧券)

【同時開催】コレクション・ギャラリー

◆プレイバック平成☆十勝美術の30年

2023年12月2日(土)～2024年3月10日(日)
 ささまざまなことがあった「平成」の30年間。十勝の美術では、どのような作品が生み出されたのでしょうか?
 所蔵品により平成の十勝美術を振り返ります☆

観覧料: 一般260(210)円、高大生150(110)円

* ()内は10名以上の団体の割引料金。

*中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方などは無料。

*高校生は毎週土曜日および学校の教育活動で利用する場合は無料。



森弘志《それ、普通》
1994～95(平成6～7)年 当館蔵

【交通案内】

- バス: 拓殖バス(帯広駅バスターミナル②より)
【④～④ 商業高校線】【⑥ 帯広の森線】乗車約16分で「緑ヶ丘6丁目・美術館入口」下車徒歩4分
- タクシー: JR帯広駅より約10分
- 駐車場: 緑ヶ丘公園駐車場(無料)

【お問い合わせ先】

北海道立帯広美術館
 Hokkaido Obihiro Museum of Art
 〒080-0846 帯広市緑ヶ丘2番地 緑ヶ丘公園
 tel. 0155-22-6963

